

「握手」(三年読書教材)

自ら学び取る授業で「生きる力」を育てる

教材化の工夫を考える会

一 生徒は「物語・小説」が好き

現行の中学校学習指導要領(解説 国語編)改善の基本方針に、「文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることを重視する。」とある。

学年始めに、国語の学習に対する意識調査のアンケートを実施すると、国語が「好き」と答える生徒は毎年度の学年でも四割程度であるが、領域ごとに見てみると、「物語・小説」「詩・短歌・俳句」などの文学的文章の学習が「好き」な生徒は八割前後いる。反対に「嫌い」な学習については「作文」が最も多く、続いて「漢字」「文法」があげられ、国語が「好き」と答えた生徒の中にもこれらを苦手と感じている生徒も少なくない。この調査の結果からも、今後重点的に指導をしていかなければならない内容と学習指導要領改訂の趣旨が合致していることが理解できる。

しかし、苦手を補つことのみ重点を置いた指導を行うことが生徒の国語に対する興味・関心を高め、国語が「好き」という生徒を増やす結果に結び付けられるとは考え難い。

二 生徒の「好き」を伸ばす授業の工夫をする

生徒が最も好きな文学的文章の教材を通して、国語力を総合的に高め、なおかつ「詳細な読解」に偏らず、生徒の主体的な学習活動を促せる授業の工夫をしたいと考えたとき、三年生で学習する教材「握手」は最適であると考えた。描写・表現の豊かさ、興味をひかれる登場人物、人間の「生き方」を考えさせられる内容など、文学的な文章が「好き」な生徒の興味・関心をさらに高められる教材だからである。

この興味・関心を「読みたい・知りたい・考えたい・表現したい」という意欲に結び付け、生徒自ら学び取る授業とするために、次のような構想を立てた。

教師の援助

学習の流れ

生徒の関心・意欲・態度と学習活動

教師の援助

- ・ 登場人物などのイメージ画
- ・ ワークシートの工夫
- ・ 見出し
- ・ イメージ画
- ・ 文章による記述
- ・ 描写、表現の抜き出し

学習形態の工夫

- ・ 個別学習
- ・ 小集団での話し合い
- ・ 全体での確認

評価と支援

- ・ 自己評価
- ・ 相互評価
- ・ 教師による評価

学習の流れ

イメージする

イメージによる理解

話し合う

言葉による理解

表現する

発展的な学習

生徒の関心・意欲・態度と学習活動

話し合い

「おもしろそう!」「なぜだろう?」
《学習課題設定》

「読んでみたい」
《漢字・難語調べ》

「こころ思った」「こころ感じた」
《内容をとらえる読み》

「詳しく知りたい」
《詳しくとらえる読み》

「なぜなら…(文章からの根拠をあげる)」「
《わかりやすく伝える》

「なるほど!」「わかった!」
《学習内容を整理する》

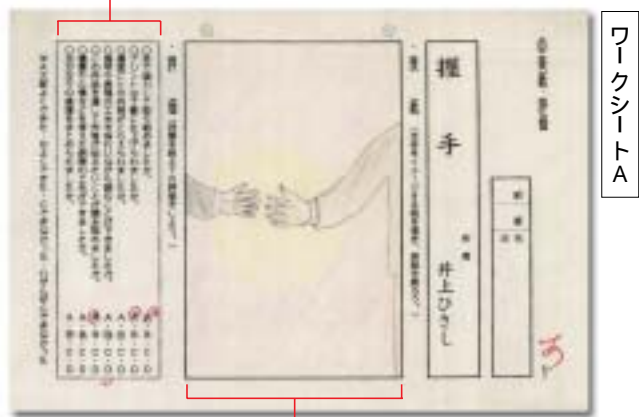
「わかったことを伝えたい!」
《感想をまとめる》

《進んで読書に親しむ》
《学習したこと、考えさせられたことを生活の中で生かす》

四 教材「握手」の学習計画を立てる(全5時間)

次	学習内容	学習活動	主体的な学習を促す支援	評価の方法
1 (1時間)	教師の範読を聞き、あらすじを確認する。	教師の範読を聞く。 あらすじを確認する。 場面分けをする。	生徒の実態、教室・学級の雰囲気などを考慮しながら、声の大きさや読む速度・抑揚を工夫し、生徒が作品に対するイメージを上げられるようにする。 登場人物を絵図などで示し、言葉による理解が苦手な生徒に対しても具体的なイメージがもてるようにする。 あらすじ(登場人物・時間的背景・出来事など)をもとに、場面分けについて考えさせる。	教科書へのチェック 【興味・関心】 ワークシートF記入 【言語事項】 ワークシートB・E記入 【読むこと】 【言語事項】 記述内容確認
2 (2時間)	場面ごとの内容をとらえる。	場面ごとの内容をとらえ、 場面の見出し、 イメージ画、 内容をまとめた文章、 描写・表現の工夫が記述できるようにしてあり、 そのいずれかの記述内容があれば話し合いのきっかけとなるようにする。 各場面についての話し合いから登場人物の生き方、考え方に着目させ、 主題をとらえさせる。 班ごとに話し合ったことを発表させ、 全体で再度、 主題について確認する。	場面ごとの内容についてまとめるとともに、 気になる表現(描写・表現の工夫)についてあげさせる。 場面ごとの絵図をヒントに提示することで、 イメージをもたせられるようにする。 場面ごとの内容を確認することで、 そこにかかわる描写・表現の工夫を抜き出しやすいようにする。	ワークシートC記入 【読むこと】 【言語事項】 記述内容確認
3 (1時間)	場面ごとの内容、表現の工夫について班で話し合う。 作品の主題について考え、話し合う。	各自がまとめたものについて発表し合い、 班で意見交換をする。 場面ごとの話し合いをもとに、 作品の主題について考え、 全体で話し合う。	主題についての話し合いをもとに、 自分の考えをまとめさせる。 生徒の実態に応じ、 登場人物の言動から何を感じたかについてまとめさせる。 自己評価の内容は、 学習の流れに沿った項目をあげて四段階で評価させるようにし、 これまでの学習や、 今後の学習での自己評価と比較させ、 自己の変容を確認する材料となるようにする。	話し合い活動 ワークシートC・G記入 【読むこと】 【話すこと・聞くこと】 机間観察 記述内容確認
4 (1時間)	読後の感想をまとめ、学習活動を振り返り、自己評価する。	作品を読んだ感想をまとめ、 学習活動を振り返って自己評価をする。		ワークシートD記入 【書くこと】 【書くこと】 ワークシートA記入 【興味・関心】 記述内容確認 記述内容確認

五 教材「握手」を学んで、生徒はこう考えた



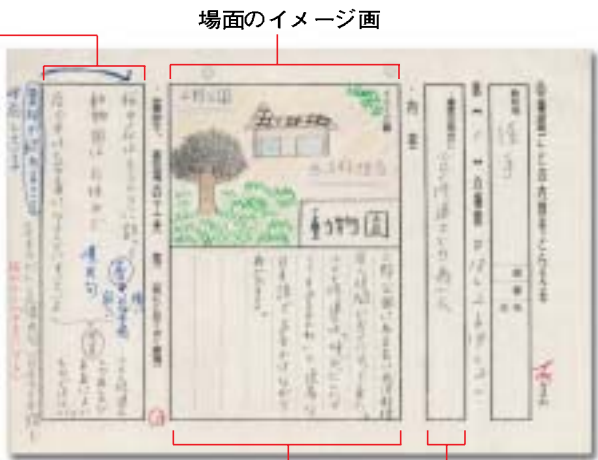
作品全体のイメージ画

学習を終えての自己評価

- 自己評価項目
- 班で協力して取り組めたか。
- プリントは丁寧に仕上げられたか。
- 場面ごとの内容はとらえられたか。
- 描写や表現の工夫を味わいながら読むことができたか。
- 作者の伝えたいこと（主題）が読み取れたか。
- 情景や心情などを考えた朗読の工夫ができたか。
- 自分なりの感想をまとめられたか。

ワークシートは全部で七種類準備した。

- A 表紙と自己評価
- B あらすじ
- C 各場面の内容
- D 主題と感想
- E 作者について
- F 漢字・語句の確認
- G 話し合いの内容まとめ



場面のイメージ画

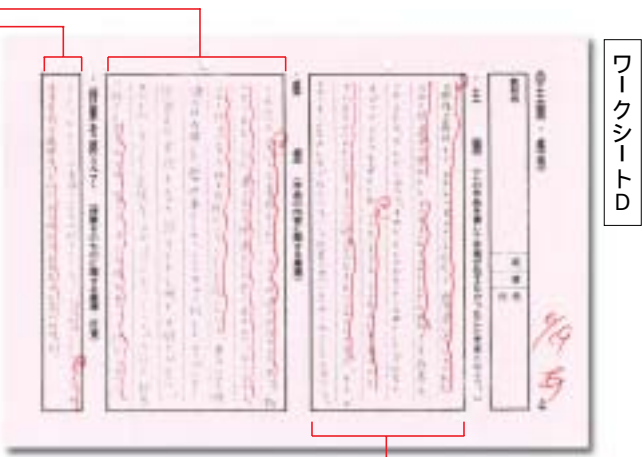
ワークシートC

描写・表現の工夫
話し合いによって加除・訂正する。

場面の内容 場面の見出し

作品の主題

作品の主題にかかわる部分を
教師が評価する。



ワークシートD

作品の感想
自分の言葉で感想が述べられている
部分を教師が評価する。

学習活動の感想
学習活動に対する自己分析を
教師が評価する。

六 教材「握手」の授業を考察する

導入段階において教材の登場人物を絵図化し、イメージをもたせたこと、また教師の範読を行ったことよって、生徒の教材に対する興味・関心を高めることができた。生徒は、頭の中で映像化された形で物語のイメージができたのだと考える。そのイメージとして把握されたものを「見出し」「イメージ画」「言葉」「気になる表現」としてワークシートに書き留めさせることにより、さらに詳しく読んでみたい、考えてみたいという意欲につながる事ができた。その意欲が、学習活動の中で徐々に言葉や文章という形での理解へと結び付いていったことが、完成された生徒のワークシートから読み取ることができた。

生徒が主体となって学習活動ができるように計画したことで、生徒はそれまでに身につけた国語の知識や技能を最大限に生かし、「自ら学び取る」ことができた。この授業を通して生徒が身につけた自信は、その後の学習活動へと生かされることになり、確かな国語力を育むことにつながっていったと考える。



登場人物イメージ画

七 教材「握手」が教えてくれたもの

この授業実践をしてから五年が過ぎ、当時の生徒たちは二十歳となった。成人式を終えた彼らが開いた同窓会に招待され、当時の懐かしい話に花が咲いた。その話の中で、数名と交わしたこんな会話が強く心に残った。

先生、わたしたちはあのときの先生の言葉をいつも心にとめて、がんばってききました。

「あのときの言葉...とは？」

「困難は分割せよ。」「とこの言葉です。」「

「それは、授業でやったルロイ先生の言葉だよ。」「

「あっ、そうでしたっけ？」

授業でできることは限られており、それ以上の発展的な指導や評価はできないものと考えていた。しかし、読み取る力を身につけたことよって、そこから受け止めたことは彼らの心に刻まれ、それがいつの間にか、「座右の銘」的なものとなって生かされていった。

中学校三年生という自分の生き方について真剣に考えなければならぬ時期、国語の基礎的な力を身につけることで、自分の生き方を考えるという「生きる力」を育んでいったこと、またこの教材がそういう力をもっていたことに、改めて驚かされた。